

**【表紙】**

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	平成29年9月27日
【中間会計期間】	第57期中（自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日）
【会社名】	株式会社小樽ゴルフ場
【英訳名】	OTARU GOLF LINKS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西條 文雪
【本店の所在の場所】	北海道小樽市銭函3丁目73番地
【電話番号】	0134（62）5051番（代表）
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務 田中 源之助
【最寄りの連絡場所】	北海道小樽市銭函3丁目73番地
【電話番号】	0134（62）5051番（代表）
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務 田中 源之助
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第55期中	第56期中	第57期中	第55期	第56期
会計期間	自平成27年 1月 1日 至平成27年 6月30日	自平成28年 1月 1日 至平成28年 6月30日	自平成29年 1月 1日 至平成29年 6月30日	自平成27年 1月 1日 至平成27年 12月31日	自平成28年 1月 1日 至平成28年 12月31日
売上高 (千円)	275,892	300,891	311,106	672,379	687,938
経常利益 (千円)	31,414	37,640	44,522	71,224	81,868
中間(当期)純利益 (千円)	18,638	23,569	24,056	42,864	46,503
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	1,699,200	1,699,200	1,699,200	1,699,200	1,699,200
発行済株式総数 (株)	169,920	169,920	169,920	169,920	169,920
純資産額 (千円)	3,231,691	3,279,486	3,326,477	3,255,917	3,302,420
総資産額 (千円)	4,259,352	4,315,899	4,438,654	4,145,357	4,209,913
1株当たり純資産額 (円)	19,018.89	19,300.18	19,576.72	19,161.47	19,435.15
1株当たり中間(当期)純利益 金額 (円)	109.68	138.70	141.57	252.26	273.68
潜在株式調整後1株当たり 中間(当期)純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	75.87	75.98	74.94	78.54	78.44
営業活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	55,432	41,193	52,897	198,169	130,743
投資活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	38,663	45,921	154,647	42,569	104,358
財務活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	8,757	58,459	122,319	154,152	27,541
現金及び現金同等物の中間期 末(期末)残高 (千円)	30,041	59,695	25,376	5,963	4,806
従業員数 (人)	113	120	120	21	21
[外、平均臨時雇用者数]	[91]	[98]	[100]	[91]	[98]

(注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移につ  
いては記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため、記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載して  
おりません。

## 2【事業の内容】

当中間会計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 3【関係会社の状況】

該当事項はありません。

## 4【従業員の状況】

### (1) 提出会社の状況

平成29年6月30日現在

従業員数(人)	120(100)
---------	----------

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、季節雇用者、人材会社からの派遣社員を含む。)は、当中間会計期間の平均人員を( )外数で記載しております。

2. 当社は、ゴルフ場事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

### (2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当中間会計期間における当社の業績は、売上高311,106千円（前年同期比10,215千円増加）、売上原価167,502千円（同673千円減少）、営業利益44,614千円（同6,385千円増加）、経常利益44,522千円（同6,882千円増加）、税引前中間純利益35,921千円（同373千円減少）、中間純利益24,056千円（同486千円増加）となりました。

入会者が増加したことにより増収増益となりました。

尚、当社は、ゴルフ場事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

#### (2)キャッシュ・フロー

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前事業年度末に比べ20,569千円増加し、25,376千円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において営業活動の結果得られた資金は、52,897千円（前年同期比11,703千円増加）となりました。これは主に、会員預り金の増加額54,000千円（同20,000千円増加）によるものです。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において投資活動の結果使用した資金は、154,647千円（前年同期比108,725千円増加）となりました。これは主に、有形固定資産の取得154,447千円（同109,225千円増加）によるものです。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において財務活動の結果得られた資金は、122,319千円（前年同期比63,860千円増加）となりました。これは主に、長期借入金の借入が120,000千円あったことによるものです。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

該当事項はありません。

### (2) 受注実績

該当事項はありません。

### (3) 販売の実績

当中間会計期間における営業日数及び入場者数の状況は、次の通りであります。

区 分	項 目	前中間会計期間	当中間会計期間	ホール数
		(自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	(自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	
新コース	営業日数	77日	77日	18
	入場者数	13,836人	13,140人	
旧コース	営業日数	88日	83日	9
	入場者数	6,503人	6,556人	

(注) 今シーズンのオープン日は、新コースは4月14日、旧コースは4月7日です。

当中間会計期間における販売の実績を収入別に示すと、次の通りであります。

営業収入別	前中間会計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)		当中間会計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
プレー収入	205,104	68.2	201,059	64.6
年会費等収入	84,640	28.1	99,510	32.0
その他の収入	11,147	3.7	10,537	3.4
合 計	300,891	100.0	311,106	100.0

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

### 3【対処すべき課題】

今後も引き続き内部統制システムの充実、経営の効率化による収益力の強化及び改善を図り、健全経営を行ってまいります。

お客様にご満足いただける良好なコースコンディションの提供並びにホスピタリティの高いトータルサービスの提供に向け、経営資源を投入するとともに、関係従業員が連携して鋭意取り組みます。

従業員教育等を計画的に積極的に行い、従業員の継続的な質的向上に努めてまいります。

### 4【事業等のリスク】

当中間会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 財政状態の分析

##### (資産の部)

当中間会計期間末における資産の部は、4,438,654千円（前事業年度末比228,741千円増加）となりました。これは主に、現金及び預金、売掛金及びたな卸資産、有形固定資産の増加によるものです。

##### (負債の部)

当中間会計期間末における負債の部は、1,112,177千円（前事業年度末比204,685千円増加）となりました。これは主に、借入金及び会員預り金の増加によるものです。

##### (純資産の部)

当中間会計期間末における純資産の部は、3,326,477千円（前事業年度末比24,056千円増加）となりました。これは、利益剰余金の増加によるものです。

#### (2) 経営成績の分析

「1 業績等の概要(1)業績」を参照願います。

#### (3) キャッシュ・フローの分析

「1 業績等の概要(2)キャッシュ・フロー」を参照願います。

### 第3【設備の状況】

#### 1【主要な設備の状況】

当中間会計期間中において、重要な設備の改築を完了しております。その主要な設備は、次のとおりであります。

名称	設備の内容	建物	その他の有形固定資産	完了年月
小樽カントリー倶楽部 旧コース	クラブハウス	111,156千円	12,814千円	平成29年3月

(注)当社の事業は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

#### 2【設備の新設、除却等の計画】

##### (1)重要な設備の新設等

該当事項はありません。

##### (2)重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種 類	発行可能株式総数(株)
普通株式	180,000
計	180,000

##### 【発行済株式】

種 類	中間会計期間末現在 発行数(株) (平成29年 6月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成29年 9月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内 容
普通株式	169,920	169,920	該当事項はありません。	単元株式数 90株
計	169,920	169,920	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年1月 1日 ~ 平成29年6月30日	-	169,920	-	1,699,200	-	1,184,755



(6)【大株主の状況】

平成29年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
大川 紘司	小樽市	630	0.37
株式会社ホクリヨウ	札幌市白石区中央2条3丁目6-15	450	0.26
宿田 孝弘	札幌市北区	450	0.26
須貝 政子	小樽市	450	0.26
渡邊 克仁	札幌市中央区	450	0.26
株式会社新宮商行	小樽市稲穂2丁目1-1	360	0.21
株式会社ノースブレイン	札幌市中央区大通西25丁目1-2	360	0.21
八田総業株式会社	札幌市中央区南5条西4丁目1-14	360	0.21
フタバ倉庫株式会社	小樽市港町8-2	360	0.21
株式会社ワコー	札幌市中央区南2条西20丁目2-1	360	0.21
吉岡 政晴	札幌市中央区	360	0.21
渡邊 昭	札幌市北区	360	0.21
計	-	4,950	2.91

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 169,920	1,888	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	169,920	-	-
総株主の議決権	-	1,888	-

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2【株価の推移】

当社株式は非上場であるため、該当事項はありません。

3【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．中間財務諸表の作成方法について

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸等表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間会計期間（平成29年1月1日から平成29年6月30日まで）の中間財務諸表については、公認会計士上原正道により中間監査を受けております。

### 3．中間連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、中間連結財務諸表は作成しておりません。

## 1【中間財務諸表等】

## (1)【中間財務諸表】

## 【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当中間会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,806	28,076
売掛金	-	65,475
たな卸資産	8,766	21,904
繰延税金資産	2,493	3,599
未収入金	4,796	9,976
その他	1,188	3,010
流動資産合計	22,052	132,043
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	169,312	2,290,098
構築物(純額)	65,384	89,857
機械及び装置(純額)	74,231	89,124
車両運搬具(純額)	19,071	18,632
工具、器具及び備品(純額)	22,215	29,061
土地	2,330,487	2,330,487
コース勘定	472,864	467,376
建設仮勘定	41,282	-
有形固定資産合計	1,417,349	1,429,638
無形固定資産	909	909
投資その他の資産	13,101	12,063
固定資産合計	4,187,861	4,306,611
資産合計	4,209,913	4,438,654
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	2,80,000	2,120,000
1年内返済予定の長期借入金	2,49,800	2,44,800
会員預り金	80,000	76,000
リース債務	9,529	10,102
未払金	22,346	20,674
未払費用	2,424	4,365
未払法人税等	17,372	21,685
預り金	2,316	26,706
その他	7,267	1,617
流動負債合計	271,056	325,952
固定負債		
長期借入金	-	2,92,000
会員預り金	602,000	660,000
リース債務	20,106	19,161
退職給付引当金	14,329	15,063
固定負債合計	636,435	786,224

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当中間会計期間 (平成29年6月30日)
負債合計	907,492	1,112,177
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,699,200	1,699,200
資本剰余金		
資本準備金	1,184,755	1,184,755
資本剰余金合計	1,184,755	1,184,755
利益剰余金		
利益準備金	995	995
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	417,470	441,526
利益剰余金合計	418,465	442,521
株主資本合計	3,302,420	3,326,477
純資産合計	3,302,420	3,326,477
負債純資産合計	4,209,913	4,438,654

## 【中間損益計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)	当中間会計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)
売上高	300,891	311,106
売上原価	4 168,176	4 167,502
売上総利益	132,715	143,604
販売費及び一般管理費	4 94,486	4 98,989
営業利益	38,228	44,614
営業外収益	1 1,047	1 1,071
営業外費用	2 1,635	2 1,163
経常利益	37,640	44,522
特別利益	-	499
特別損失	3 1,345	3 9,101
税引前中間純利益	36,294	35,921
法人税、住民税及び事業税	13,721	13,194
法人税等調整額	995	1,329
法人税等合計	12,725	11,865
中間純利益	23,569	24,056

【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間（自 平成28年 1月 1日 至 平成28年 6月30日）

（単位：千円）

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	1,699,200	1,184,755	1,184,755	995	370,966	371,962	3,255,917	3,255,917
当中間期変動額								
中間純利益					23,569	23,569	23,569	23,569
当中間期変動額合計	-	-	-	-	23,569	23,569	23,569	23,569
当中間期末残高	1,699,200	1,184,755	1,184,755	995	394,536	395,531	3,279,486	3,279,486

当中間会計期間（自 平成29年 1月 1日 至 平成29年 6月30日）

（単位：千円）

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	1,699,200	1,184,755	1,184,755	995	417,470	418,465	3,302,420	3,302,420
当中間期変動額								
中間純利益					24,056	24,056	24,056	24,056
当中間期変動額合計	-	-	-	-	24,056	24,056	24,056	24,056
当中間期末残高	1,699,200	1,184,755	1,184,755	995	441,526	442,521	3,326,477	3,326,477

## 【中間キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)	当中間会計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前中間純利益	36,294	35,921
減価償却費	28,954	31,256
退職給付引当金の増減額（は減少）	548	733
賞与引当金の増減額（は減少）	849	866
貸倒引当金の増減額（は減少）	80	-
受取利息及び受取配当金	48	44
支払利息	1,635	1,163
有形固定資産除売却損益（は益）	1,345	6,001
未収入金の増減額（は増加）	2,054	2,460
立替金の増減額（は増加）	1,610	1,180
売上債権の増減額（は増加）	65,466	65,475
たな卸資産の増減額（は増加）	5,854	13,138
未払又は未収消費税等の増減額	5,895	14,155
未払金の増減額（は減少）	3,918	593
会員預り金の増減額（は減少）	34,000	54,000
その他	31,521	28,113
小計	58,057	65,927
利息及び配当金の受取額	48	44
利息の支払額	1,945	1,298
法人税等の支払額	14,967	11,776
営業活動によるキャッシュ・フロー	41,193	52,897
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	700	700
有形固定資産の取得による支出	45,221	154,447
有形固定資産の売却による収入	-	500
投資活動によるキャッシュ・フロー	45,921	154,647
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	90,000	40,000
長期借入れによる収入	-	120,000
長期借入金の返済による支出	27,000	33,000
リース債務の返済による支出	4,540	4,680
財務活動によるキャッシュ・フロー	58,459	122,319
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	53,731	20,569
現金及び現金同等物の期首残高	5,963	4,806
現金及び現金同等物の中間期末残高	1 59,695	1 25,376



【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) たな卸資産

主として先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

平成19年3月31日までに取得したもの	旧定額法
平成19年4月1日以降に取得したもの	定額法

尚、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建 物	8～50年
構築物	3～30年
機械及び装置	4～17年
車両運搬具	2～6年
工具、器具及び備品	3～15年

(2) 長期前払費用 定額法

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当中間会計期間の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員に対する退職給付に備えるため簡便法を採用し、当事業年度末における退職給付債務の見込み額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。

4. 中間キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に返還期限の到来する短期投資からなっております。

5. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

尚、仮払消費税と仮受消費税は相殺の上、前事業年度は流動負債のその他に、当中間会計期間は流動資産の未収入金に含めて表示しております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を中間会計期間から適用しております。

(中間貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当中間会計期間 (平成29年6月30日)
	1,345,054千円	1,357,134千円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当中間会計期間 (平成29年6月30日)
土地	1,305,599千円	1,306,195千円
建物	-	111,156

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当中間会計期間 (平成29年6月30日)
短期借入金	60,000千円	100,000千円
長期借入金	49,800	136,800

(中間損益計算書関係)

1 営業外収益のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 平成28年 1月 1日 至 平成28年 6月30日)	当中間会計期間 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年 6月30日)
ゴルフ利用税報償金	647千円	674千円

2 営業外費用のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 平成28年 1月 1日 至 平成28年 6月30日)	当中間会計期間 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年 6月30日)
支払利息	1,635千円	1,163千円

3 特別損失のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 平成28年 1月 1日 至 平成28年 6月30日)	当中間会計期間 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年 6月30日)
建物除却損	91千円	- 千円
構築物除却損	-	237
機械及び装置除却損	1,253	0
コース勘定除却損	-	6,264

4 減価償却実施額

	前中間会計期間 (自 平成28年 1月 1日 至 平成28年 6月30日)	当中間会計期間 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年 6月30日)
有形固定資産	28,847千円	31,149千円
長期前払費用	106	106

(中間株主資本等変動計算書関係)

前中間会計期間(自平成28年1月1日至平成28年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当中間会計期間増加株式数(株)	当中間会計期間減少株式数(株)	当中間会計期間末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	169,920	-	-	169,920
合計	169,920	-	-	169,920

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当中間会計期間(自平成29年1月1日至平成29年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当中間会計期間増加株式数(株)	当中間会計期間減少株式数(株)	当中間会計期間末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	169,920	-	-	169,920
合計	169,920	-	-	169,920

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(中間キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 平成28年 1月 1日 至 平成28年 6月30日)	当中間会計期間 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年 6月30日)
現金及び預金勘定	59,695千円	28,076千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	2,700
現金及び現金同等物	59,695	25,376

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、社有車及び乗用カート(車両運搬具)であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2.固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

前事業年度末(平成28年12月31日)

金融商品の時価等に関する事項

平成28年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。尚、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
短期借入金	80,000	80,000	-
長期借入金	49,800	49,726	73

(注)金融商品の時価の算定方法に関する事項

1. 短期借入金

短期で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 長期借入金

長期借入金には1年以内返済予定額49,800千円が含まれております。また、これらの時価については、元利金の合計額を同様に新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

3. 会員預り金

会員預り金682,000千円は入会時の預託金であり、将来のキャッシュ・フローの発生時点を合理的に見積ることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記には含めておりません。

当中間会計期間末(平成29年6月30日)

金融商品の時価等に関する事項

平成29年6月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。尚、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

(単位：千円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
短期借入金	120,000	120,000	-
長期借入金	136,800	136,714	85

(注)金融商品の時価の算定方法に関する事項

1. 短期借入金

短期で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 長期借入金

長期借入金には1年以内返済予定額44,800千円が含まれております。また、これらの時価については、元利金の合計額を同様に新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

3. 会員預り金

会員預り金736,000千円は入会時の預託金であり、将来のキャッシュ・フローの発生時点を合理的に見積ることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記には含めておりません。

(有価証券関係)  
該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)  
該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)  
該当事項はありません。

(企業結合等関係)  
該当事項はありません。

(資産除去債務関係)  
該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)  
該当事項はありません。

(持分法損益等)  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間会計期間(自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)

当社は、ゴルフ場の事業を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当中間会計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)

当社は、ゴルフ場の事業を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前中間会計期間(自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

当社は、外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため記載を省略しております。

当中間会計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

当社は、外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。



( 1 株当たり情報 )

	前中間会計期間 (自 平成28年 1月 1日 至 平成28年 6月30日 )	当中間会計期間 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年 6月30日 )
1 株当たり中間純利益金額	138円70銭	141円57銭
( 算定上の基礎 )		
中間純利益金額 ( 千円 )	23,569	24,056
普通株主に帰属しない金額 ( 千円 )	-	-
普通株式に係る中間純利益金額 ( 千円 )	23,569	24,056
普通株式の期中平均株式数 ( 株 )	169,920	169,920

( 注 ) 潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当中間会計期間 (平成29年 6月30日)
1 株当たり純資産額	19,435円15銭	19,576円72銭
( 算定上の基礎 )		
純資産の部の合計額 ( 千円 )	3,302,420	3,326,477
純資産の部の合計額から控除する金額 ( 千円 )	-	-
普通株式に係る中間期末 ( 期末 ) の純資産額 ( 千円 )	3,302,420	3,326,477
1 株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末 ( 期末 ) の普通株式の数 ( 株 )	169,920	169,920

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

( 2 ) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第56期）（自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日）平成29年3月23日北海道財務局長に提出

**第二部【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

平成29年9月8日

株式会社小樽ゴルフ場

取締役会 御中

公認会計士 上原正道事務所

公認会計士 上原 正道 印

私は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社小樽ゴルフ場の平成29年1月1日から平成29年12月31日までの第57期事業年度の中間会計期間（平成29年1月1日から平成29年6月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、中間キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、私に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

私は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社小樽ゴルフ場の平成29年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間（平成29年1月1日から平成29年6月30日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。